

# 「将来」を守るのは、自分で形成した資産

ゆとりのある老後生活を送るためのいわゆる“セカンドライフマネー”は、約1億円だと言われています。月額にして実に35万円～40万円強。定年退職すれば、公的年金が得られるだけでなく、退職金や企業年金などの臨時収入、またこれまでに貯蓄してきた個人資金もあるでしょう。

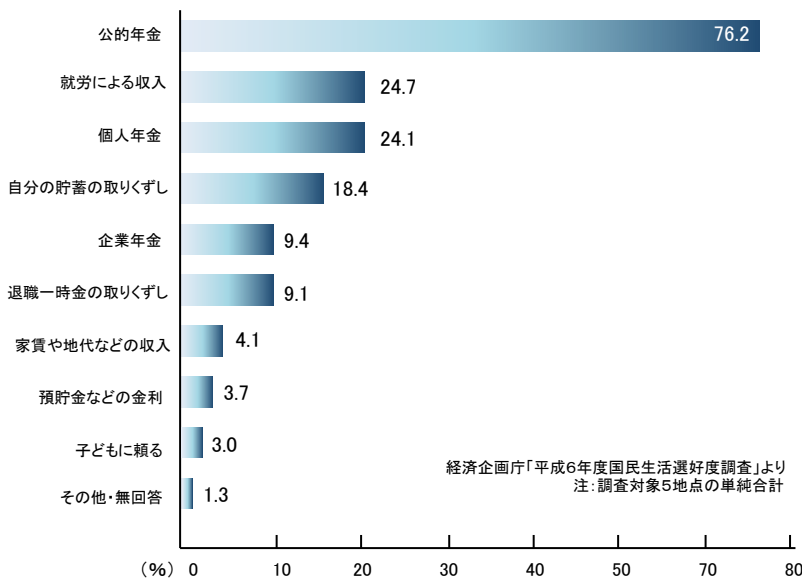
しかし、それらの収入だけでセカンドライフマネーとされる1億円に達することができるのでしょうか。おそらくは、ほんのひとにぎりの方でしょう。だからといって、今から不足分を貯蓄すると言っても、簡単に追いつく

額ではありません。しかし、マンション経営に基づく安定収入があれば、今から日々の生活を切り詰める必要もなく、しかも長期に渡って家賃収入を得ることができるので、豊かなセカンドライフに期待が持てます。

## ◆年収別セカンドライフの生活費の目安◆

世帯税込み年収	最低日常生活 (月額)	ゆとりある生活費 (月額)
500万円以上 700万円未満	23.0万円	38.0万円
700万円以上 1000万円未満	23.9万円	38.1万円
1000万円以上	25.9万円	42.0万円

## ◆老後の収入源として期待しているもの◆



「マンション経営」という名の「資産」は、通常年収から差し引かれる税金の節税役から始まり、安定収入をもってローンの返済を助けます。ローンを返済し終わった時点で、今度は「固定収入」として生活を支えてくれるようになります。

万一の時には、大切な人たちを守ってくれる、実で安心できる存在として、オーナー様の老後をも、豊かで未来あるものとして支えつづけてくれます。「マンション」経営は、実に様々な顔を持っています。しかも、その顔は終始オーナー様に微笑み続ける、「安心・安定」の笑顔なのです。

●大阪府の調査によると老後にゆとりある生活をするためには  
月額約39万円必要

●夫婦二人の平均的な厚生年金支給額は月額約24万円  
差引き15万円の不足

●金融資産により月額15万円の利息を得る為には

※高金利時代 ⇒  $3600\text{万円} \times 5\% \div 12\text{ヶ月} = 15\text{万円/月}$

※超低金利時代 ⇒  $6\text{億円} \times 0.3\% \div 12\text{ヶ月} = 15\text{万円/月}$

【期間10年の大口定期預金の金利】